

▼伝道委員会▲

教団伝道委員長会議に集中

第43総会期第1回伝道委員会が3月14日、教団事務局3階スタジオで開催された。主な議案は以下の通り。

(1)今期委員及び委員会組織の委員長・中西真一、書記・山口紀子、宣教委員子、荒井偉作。「ひいろの友」「信徒の友」編集委員会担当・石井佑一、山口。農村伝道担当・荒

井、鈴木。青年伝道担当・片岡宝子。

さらに前総会期で活動を閉じた伝道推進室の継続と要望を雲然俊美教団総会議長から聞き、二つの働きを引き継いだ。委員会は担当者を新たに選任した。

「日本伝道の推進を祈る」担当・石井、片岡、山口。小規模教会支援担当・中西、宮本。

(2)2024年会計報告・承認。

2025年度予算案の承認。

(3)今期委員会の方針と計画

今期委員は7名のうち5名が再任のため、継続

援助金申請の件

*大磯教会(神奈川教

区)会堂増改築工事のた

め。*長岡教会(関東教

区)新牧師館取得、消雪

設備を備えた駐車場整備

のため。*東京新生教会(西東京教区)会堂階段

改築のため。

3教会各200万円、

合計600万円の援助申

請を受け付けた。3教会

より申請があり1000

万円の貸出を承認した。

(5)2024年度開拓伝道

援助金申請の件

*大磯教会(神奈川教

区)会堂増改築工事のた

め。*長岡教会(関東教

区)新牧師館取得、消雪

設備を備えた駐車場整備

のため。*東京新生教会(西東京教区)会堂階段

改築のため。

3教会各200万円、

合計600万円の援助申

請を受け付けた。3教会

より申請があり1000

万円の貸出を承認した。

今期は教区伝道委員長

会議開催に集中し「農村

伝道」に関する協議会は

次期へ見送る。

(4)2024年度後期分会

境南教会(西東京教区)

堂貸出金の件

(5)2024年度開拓伝道

援助金申請の件

*大磯教会(神奈川教

区)会堂増改築工事のた

め。*長岡教会(関東教

区)新牧師館取得、消雪

設備を備えた駐車場整備

のため。*東京新生教会(西東京教区)会堂階段

改築のため。

3教会各200万円、

合計600万円の援助申

請を受け付けた。3教会

より申請があり1000

万円の貸出を承認した。

今期は教区伝道委員長

会議開催に集中し「農村

伝道」に関する協議会は

次期へ見送る。

(4)2024年度後期分会

境南教会(西東京教区)

堂貸出金の件

(5)2024年度開拓伝道

援助金申請の件

*大磯教会(神奈川教

区)会堂増改築工事のた

め。*長岡教会(関東教

区)新牧師館取得、消雪

設備を備えた駐車場整備

のため。*東京新生教会(西東京教区)会堂階段

改築のため。

3教会各200万円、

合計600万円の援助申

請を受け付けた。3教会

より申請があり1000

万円の貸出を承認した。

今期は教区伝道委員長

会議開催に集中し「農村

伝道」に関する協議会は

次期へ見送る。

(4)2024年度後期分会

境南教会(西東京教区)

堂貸出金の件

(5)2024年度開拓伝道

援助金申請の件

*大磯教会(神奈川教

区)会堂増改築工事のた

め。*長岡教会(関東教

区)新牧師館取得、消雪

設備を備えた駐車場整備

のため。*東京新生教会(西東京教区)会堂階段

改築のため。

3教会各200万円、

合計600万円の援助申

請を受け付けた。3教会

より申請があり1000

万円の貸出を承認した。

今期は教区伝道委員長

会議開催に集中し「農村

伝道」に関する協議会は

次期へ見送る。

(4)2024年度後期分会

境南教会(西東京教区)

堂貸出金の件

(5)2024年度開拓伝道

援助金申請の件

*大磯教会(神奈川教

区)会堂増改築工事のた

め。*長岡教会(関東教

区)新牧師館取得、消雪

設備を備えた駐車場整備

のため。*東京新生教会(西東京教区)会堂階段

改築のため。

3教会各200万円、

合計600万円の援助申

請を受け付けた。3教会

より申請があり1000

万円の貸出を承認した。

今期は教区伝道委員長

会議開催に集中し「農村

伝道」に関する協議会は

次期へ見送る。

(4)2024年度後期分会

境南教会(西東京教区)

堂貸出金の件

(5)2024年度開拓伝道

援助金申請の件

*大磯教会(神奈川教

区)会堂増改築工事のた

め。*長岡教会(関東教

区)新牧師館取得、消雪

設備を備えた駐車場整備

のため。*東京新生教会(西東京教区)会堂階段

改築のため。

3教会各200万円、

合計600万円の援助申

請を受け付けた。3教会

より申請があり1000

万円の貸出を承認した。

今期は教区伝道委員長

会議開催に集中し「農村

伝道」に関する協議会は

次期へ見送る。

(4)2024年度後期分会

境南教会(西東京教区)

堂貸出金の件

(5)2024年度開拓伝道

援助金申請の件

*大磯教会(神奈川教

区)会堂増改築工事のた

め。*長岡教会(関東教

区)新牧師館取得、消雪

設備を備えた駐車場整備

のため。*東京新生教会(西東京教区)会堂階段

改築のため。

3教会各200万円、

合計600万円の援助申

請を受け付けた。3教会

より申請があり1000

万円の貸出を承認した。

今期は教区伝道委員長

会議開催に集中し「農村

伝道」に関する協議会は

次期へ見送る。

(4)2024年度後期分会

境南教会(西東京教区)

堂貸出金の件

(5)2024年度開拓伝道

援助金申請の件

*大磯教会(神奈川教

区)会堂増改築工事のた

め。*長岡教会(関東教



外観とキャンドルサービスでの集合写真

と幼稚園、地域の方々に仕えました。また菊地一男牧師、佐藤健牧師・七海牧師等も仕え、2022年からは中條康仁が仕えています。

本宮の歴史は阿武隈川氾濫の歴史と言つても過言ではありません。度重なる氾濫と水害を経て2012年阿武隈川の堤防改修工事が行われました。堤防と道路拡張のために教会用地の一部を売却し、その資金と全国諸教会からの献金を通して新会堂が建てられました。改めて心から感謝申し上げます。しかし喜

これからも教会の源流である福音主義キリスト教に根差しつつ、喜びをもって歩んで参ります。どうぞこれからもお祈りください。覚えていただけましたら幸いです。こちらも本宮の地から祝福をお祈りしています。

「主の慈しみは決して絶えない。主の憐れみは決して尽きない。それは朝ごとに新たになる」(哀歌3・22～23)。

福島県のほぼ中央に位置し、県内の市では最も少ない人口3万人の街・本宮市。阿武隈川が流れる自然豊かな場所で、古くから街道が交差する宿場町として栄えました。現在では県を代表する物流工業都市として発展し、また利便性の良さから、郡山市のベットタウンとして子育て世代が多く移住するようになりました。住みやすさランキンングでは11年連続県内1位を獲得するまでに至りました。

立は1916年5月20日、来年は創立110年を迎えます。東北学院神学部で学びを受けた初代牧師・吉田菊太郎牧師は、阿武隈川沿いに本宮伝道所を開設し、信徒10名、日曜学校48名の方々を牧会しました。1919年吉田牧師が退休と、その後数名の牧師を経て、赤城英夫牧師（1930年、36年）、井関磯美牧師（1936年）

びも束の間、2019年台風19号によって再び河川が氾濫し（今度は支流の安達太良川でした）、本宮教会を始めとする河川地域は2メートル強の浸水被害に遭いました。まるでバビロニア捕囚によって神殿が失われた時のように、悲嘆と絶望の心境となりました。その時期は毎週信徒宅で礼拝を捧げ、いわき郡山地区の皆さんも泥かきや復旧作業を手伝ってもらいました。と共に汗をかいて、無事復旧がなされました。本当に感謝でした。



Daeun Seo さんと筆者(右)

毎日4～5種類の分科会があり、主題講演には、ネパールの担当大臣や国連のエンダーモンテル代表も参加。ネパールは台湾（2019年）に続き、2023年、アジアで2番目に同性婚を認めていた。

《ILGAアジア会議》

アジア各国の性的マイノリティーの状況を共有

3月11日、教団三役で、仙台から白石教会に向かい、東北教区東日本大震災14年記念礼拝に出席し、その後、高橋真人東北教区議長の先導で小高伝道所（福島県南相馬市）に向かった。小高伝道所は東京電力福島第一原子力発電所から約18kmに位置し、浪江伝道所（福島県双葉郡浪江町。原発から約10km）に次いで、原発に近い教会である。小高と浪江に10年前に訪問した時、町の様子はまさにゴーストタウン化していた。小高伝道所では、震災時の状況そのまま

河合さんは、神道の祖父仏教徒の祖母という家庭で育てられ、仏教の幼稚園に通い小中学生のころは祖母に連れられてお寺の奉仕をしていました。母が、信者ではないけれどもカトリック教会に足を運んでいたこともあり、高校で函館白百合学園に通った。そして、幼稚園教諭資格を取得するために、今度は仏教の短大に通うというように、流れのままに過ごしていた。ところが、就職の面接で渡島福島伝道所（当時）を訪れたことで、一変した。「ずっと寄り道をして、ようやくたどり着いたがここにほんとうに神さまがいらっしゃる」と感じたという。幼児ど

小高・浪江伝道所の会

小高・浪江伝道所の今

量がきわめて高かった。

それが、この度訪ねてみたところ、西伝道所とともに草が刈られ、会堂内も整理され、礼拝がなされていた。2022年には飯島信教師が西伝道所の牧

の礼拝堂と幼稚園の教室を窓越しに見て、草が伸びている園庭で祈りをささげた。震災前は「薔薇の教会」と称していた浪江伝道所も草が伸び放題で、放射線

共に、幼児礼拝で天地創造が始まる聖書物語をワクワクして聴いた。毎週土日礼拝にも出席し、御言葉が自分のために語られていると錯覚するほどに魂に注ぎこまれた。就職した年のクリスマスに受洗に導かれた。



渡島福島教會員

が言い聞かせていました言葉だ。そんな折、大病を患い死をも覚悟して祈ったときにいたいた御言葉が、「娘よ、安心していきなさい。もうその病気は河合さんが元気に神さまの御用をしていることを共に喜んでくれている。

幼稚園の働きをとおして、園児が幼い時期に神さまに出会うお手伝いができることが、その家族と共に礼拝をささげることが大きな喜びであり、それが、神さまがわたしをここに置かれた御心だと信じている、と河合さんは言う。